

5. レポートを論理的に書く

レポートの構成を検討しアウトラインを作成したら、次は実際にレポートを書き進めていきましょう。読み手を説得するレポートを書くためには、「パラグラフ」を意識して書くことが大切です。

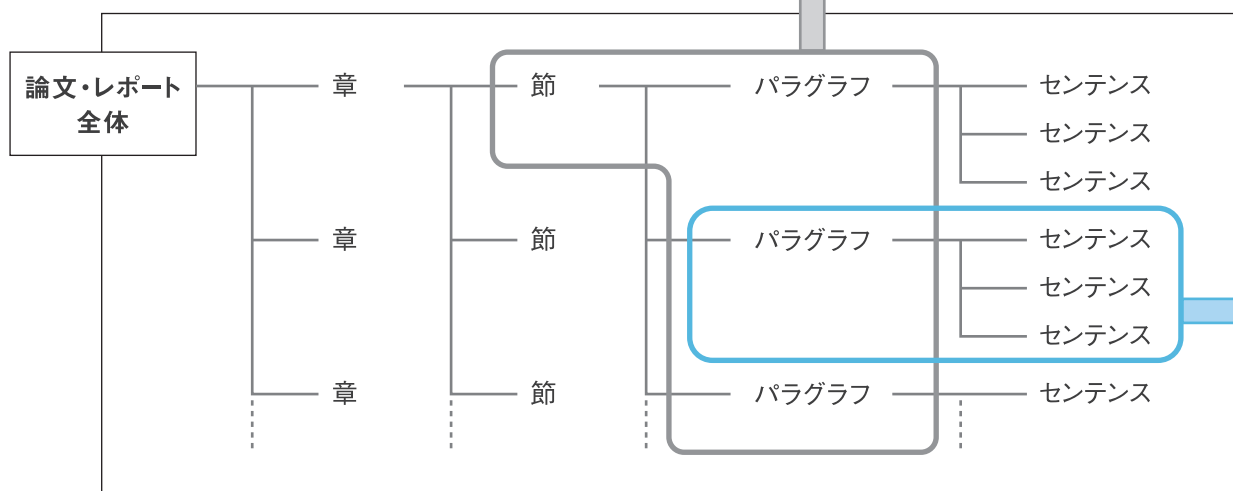
パラグラフ

パラグラフとは、単に文章を読みやすく区切る「段落」とは異なり、内容的に「1つのトピック」を述べるための文章のまとまりです。したがって、1つのパラグラフでは1つのトピックを扱います。レポートを論理的に書くためには、パラグラフを積み重ねて結論へと導いていきます。

基本単位としてのパラグラフ

レポートや論文を書くときは、文章全体を以下のような階層構造に分割します。階層構造をすっきりさせて読みやすくすることが必要です。アウトラインを書く時からこのような構造を意識することが大切です。なお、「章」は卒論のような長い論文を書く際には必要ですが、通常のレポートでは「節」から構成すれば十分です。節の中で複数のパラグラフを展開しましょう。

1つのパラグラフは、200～400字程度を目途に書くようにしましょう。



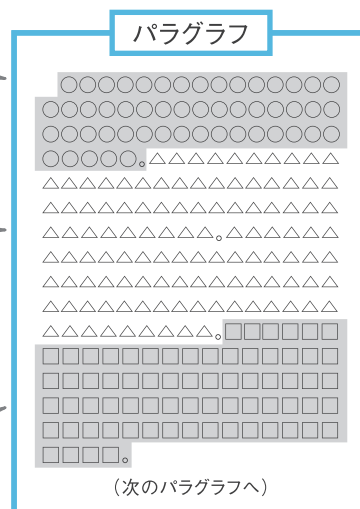
パラグラフの構成要素

パラグラフは、通常、次の3つの要素で構成します。

冒頭で、このパラグラフで何が言いたいのかをはっきりと説明する。
(トピック・センテンス)

トピック・センテンスで述べたことについて、理由や具体例など、より多くの情報を補足して説明を行う。複数のセンテンスを積み重ねることによって、結論へと導いていく。
(サポーティング・センテンス)

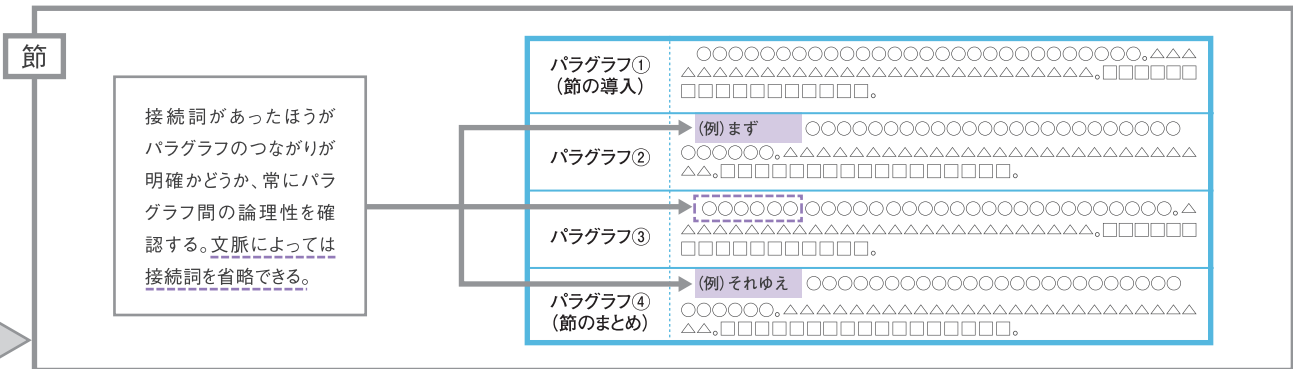
最後に結論を明示する。節のまとめとなるパラグラフの場合には必ず必要。途中のパラグラフでは、なくてもかまわない。次のパラグラフにつながる内容を書くこともある。
(コンクルーディング・センテンス)



(次のパラグラフへ)

パラグラフをつなげて節を作る

節を作るには、パラグラフを論理的な流れに沿って並べる必要があります。その際、接続詞を適切に用いることでパラグラフとパラグラフの前後関係を明確にし、文章の論理性を高めて内容をわかりやすく伝えることができます。ただ、すべてのパラグラフの冒頭に接続詞が必要かといえば、必ずしもそうではありません。大切なことは、節を構成するパラグラフ間のつながりを明確にすることです。レポートを書いた後で確認するようにしましょう。



接続詞の使い方

接続詞は、パラグラフやセンテンスをつなぐ役割を果たします。さまざまな接続詞の役割を知り、文脈に応じて適切に使用するようにしましょう。

接続詞は、**順接**と**逆接**の大きく二つに分けることができます。

順接

先の主張を保持し、それを踏まえて次の主張がなされる接続関係

- ① 付加 **しかも／さらに／くわえて／なお／かつ／そのうえ**
 - ▶ 主張を付け加える場合に用いる
 - 例：仮説に反する実験データが出た。**しかも**、追試でも同様の結果が出た。
- ② 言換 **すなわち／つまり／要するに／言い換えれば**
 - ▶ それまでの内容を言い換えたり要約したりする場合に用いる
 - 例：追試でも同様の結果が出た。**要するに**、その仮説には全く根拠がない。
- ③ 論証 **なぜなら／というのも／その理由は／よって／したがって／それゆえ／だから／～ので／～から**
 - ▶ 理由と帰結の関係を示すために用いる
 - 例：事実から価値を直接的に導くことはできない**ので**、隠れた前提を探す必要がある。
- ④ 例示 **たとえば／その例として／具体的には**
 - ▶ 具体例による説明を行う場合に用いる
 - 例：人間の活動には、生物多様性を損なう原因となるものがある。**たとえば**、乱獲がそうだ。

逆接

議論の流れを変え、それまでの主張を修正・制限したり、対比的に別の主張を導入したりする接続関係

- ① 転換 **だが／しかし／ところが／けれども／にもかかわらず／むしろ**
 - ▶ ある主張の後に、それに対立する主張に乗り換えるような場合に用いる
 - 例：タバコの健康に対する有害性は明白である。**しかし**、喫煙する自由は認められるべきだ。
- ② 制限 **ただし／もっとも／だが／しかし／とはいえ**
 - ▶ 前の主張に制限を加える場合に用いる
 - 例：私は健康のためにタバコを止めた。**とはいえ**、このことを他の喫煙者に強制はできない。
- ③ 対比 **一方／他方／それに対して／ところで／反対に**
 - ▶ 前の主張と対比させる場合に用いる
 - 例：喫煙の習慣が原因で疾患にかかる人は多い。**一方**、いくらタバコを吸っても健康な人もいる。